

持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議
第一回温室効果ガスの見える化作業部会概要

日時：令和4年2月22日（火）14:00～15:30

場所：農林水産省、Web 会議（ハイブリット開催）

出席者：別添参照

【概要（主な御意見）】

温室効果ガスの見える化に関する取組・課題等に関する意見

- スコープ3の算定に関して、同一企業内でも品目によって算定の精度がバラバラであり、ホットスポット解析の精度が低い。
- 業種別の原単位（注：産業連関表ベースの排出源単位）で GHG 排出量を推計しているため、現実合っていない。
- スコープ3の算定に関して、輸入原材料に対して使用すべき原単位、海外事業で使用すべき原単位等が不明瞭。
- スコープ3の算定に関して、グローバルに対応できる算出方法の体系化が必要。
- GHG 排出量の算定に関して、業界毎のシンプルな計算ツールや手引書があると取り組みやすい。
- スコープ3の算定に関しては、必要なデータ提供や、GHG 削減のためのサプライヤーの協力・理解を得ることが困難。
- スコープ3の算定に当たっては、GHG 削減努力が反映される形にすることが大切。
- GHG 算定は重要であるが、企業が持続可能な取組にするためには、経済との両立が必要である。



○ 持続可能な農業に取り組んでいる既存の生産者の努力が反映されることが大切であり、そのためにも 有機栽培や低農薬栽培の環境負荷がどれほど低いかの明確化が必要。

○ カーボンフットプリントのような、消費者に対して価値訴求していくことが重要。

○ 有機部会など円卓会議の 他の作業部会との具体的な連携に期待。

2. 今後について

○ 次回以降は、企業はオブザーバー参加ではなく、参加希望企業には出席者として議論に参加してもらうこととする。

○ 次回会合は来年度以降に開催予定。

(以上)

(別添)

「持続可能な食料生産・消費のための官民円卓会議」

温室効果ガスの見える化部会

出席者一覧

高取 幸子	味の素株式会社	サステナビリティ推進部長
梶島 裕美枝	イオン株式会社	環境・社会貢献部 マネージャー
綿田 圭一	カゴメ株式会社	品質保証部 環境システムグループ 専任課長
岡部 容子	日本コカ・コーラ株式会社	広報・渉外&サステナビリティ推進本部 渉外部長
東海林 園子	オイシックス・ラ・大地株式会社	経営企画本部 新規事業開発準備室 グリーンプロジェクトリーダー
堀内 孝之	国分グループ本社株式会社	執行役員物流統括部長
原 健太郎	国分グループ本社株式会社	物流統括部 企画・管理課長
古賀 秀之	国分グループ本社株式会社	経営企画部 サステナビリティ推進課長
加藤 純	全国農業協同組合中央会	農政部 次長
斉藤 圭	日清食品ホールディングス株式会社	経営企画部 次長
新良貴 泰夫	日本生活協同組合連合会	組織推進本部 社会・地域活動推進部 サステナビリティ推進グループ
鈴木 貴博	日本農業法人協会	協会会員、株式会社 鈴生 代表取締役社長
鳴海 洋一	日本ハム株式会社	サステナビリティ部 プロモーター
田中 優衣	日本マクドナルド株式会社	コミュニケーション&CR本部 GR部 マネージャー
尾崎 太郎	農林中央金庫	営業企画部長
南 俊哉	ハウス食品グループ本社株式会社	コーポレートコミュニケーション本部 CSR部 部長
佐藤 雄介	マルハニチロ株式会社	経営企画部サステナビリティ推進グループ副部長役
清水 康男	明治ホールディングス株式会社	サステナビリティ推進部 環境G長

黒瀬 陽 Climate Youth Japan 副代表

新井 ゆたか 農林水産省 農林水産審議官

道野 英司 農林水産省 大臣官房審議官（兼輸出・国際局）

長野 麻子 農林水産省 新事業・食品産業部 新事業・食品産業政策課 課長

吉松 亨 農林水産省 新事業・食品産業部 企画グループ長

久保 牧衣子 農林水産省 環境バイオマス政策課 地球環境対策室 室長

（オブザーバー）

藤野 浩章 伊藤忠商事株式会社 食料経営企画部部長代行

右近 修一 伊藤忠商事株式会社 食糧部門食糧戦略室長

山崎 祐輔 伊藤忠商事株式会社 食品流通部門第三課課長代行

中島 辰実 伊藤忠商事株式会社 食品流通部門食品流通戦略室

内藤 冬美 環境省地球環境局地球温暖化対策課 脱炭素ビジネス推進室 室長